



の次女中村裕美さん＝7月下旬、広島市の平和記念公園

## 2世が口伝

広島、長崎に原爆が投下されてから70年。被爆者の平均年齢は今年初めて80歳を超え、原爆の悲惨さを伝える証言活動や、被爆者団体による平和運動は岐路を迎えている。県内でも被爆者が年々減少し、活動が縮小している。原爆の被害を直接知らない次世代が被爆者の思いをどう受け継ぎ、行動するか。その中心と期待される被爆2世らの思いや取り組み、課題を広島から報告する。（社会部・尾原崇也）

**NEWS** 交差点

# 被爆者の声 不戦の誓い 次代へ

団体進む世代交代



原爆死没者慰靈碑脇にある折り鶴ケースを掃除するピース・メイトの若者ら=7月中旬、広島県福山市

市民、若者と連携も

本県原水爆被害者の会は「2世支部」

何十年も綴ぐ原爆被害の実相を伝え、平和活動の中心的役割を担ってきた被爆者団体で世代交代が進んでいる。家族だけでなく、一般市民や若者と連携するなど、新たな取り組みも出てきた。

広島県の南東部、岡山県境にある「福山市原爆被害者の会」は役員の高齢化を理由に3月に解散した。当初は継承団体をつくる予定はなかったが、翌4月、被爆2世が中心となり、「活動を引き継ぐ」「市原爆被害者友の会」を発足させた。被爆者20人、被爆2世(68)が就いた。被爆者団体代表に2世が就くのは広島も初めてだった。

親子間が「縦のつながり」なのに対し、藤井さんが重きを置いているのが平和の志とともにいる市民との「横のつながり」だ。恒久平和と核兵器廃絶の活動に賛同する団・個人を「ピース・メイト」として募り、連携する仕組を新たにつくった。早速7には、連携協定を交わした元の高校の生徒や大学生と

爆心地から2・3キロにはいった軍需工場で作業中に被爆しました」。70回目の「原爆の日」を控えた7月下旬、広島市にある広島平和記念資料館のロビーで、大田孝由さん(68)＝奈良県生駒市＝が一般の来館者を前に「被爆体験」を語り始めた。ただ、語っているのは親族でも旧知の間柄でもない人の体験談だ。大田さんは広島市が企画した被爆体験伝承者養成事業の1期生。約3年かけて梶本淑子さん

大田さんは大阪市の元小学校教諭。母親が被爆した被爆2世だが、5歳で広島を離れ、特別、平和教育に熱心というわけでもなかつた。しかし、母親が12年前に82歳で亡くなると、被爆体験を十分に聞かなかつたことを後悔するようになつた。母親が広島市にある追悼平和祈念館に寄せた体験記は「このようなことが二度とないよう、平和が続

# 「奪われた命」思い

## 広島市 伝承者養成事業

## 広島市 伝承者養成事業

**Q** 被爆体験伝承者養成事業 被爆者の高齢化対策として広島市が2012年度から始めた。約3年の養成期間を経て30～70代の1期生50人が4月から活動している。広島平和記念資料館や追悼平和祈念館で来館者対象の通年講話のほか、学校などの依頼に応じて、受け継いだ被爆体験や放射線の後遺症など原爆被害の概要を伝えている。英語で証言できる伝承者も5人いる。現在、1～4期生210人が研修中。研修には約20人の被爆者が協力している。

**原爆被害** 太平洋戦争末期の1945年8月6日午前8時15分、米国は戦争で初めて原爆を使用し、広島に投下した。熱線によるやけどや火災、放射線障害などで同年末までに約14万人が死亡したとされる。同9日午前11時2分、長崎にも投下し、同年末までに約7万4千人が死亡したとされる。被爆者は80年度末の約37万人をピークに年々減少し、今年3月末時点で18万3519人。平均年齢は80・13歳。今も白内障や白血病、がんなど放射線の後遺症で苦しんでいる被爆者は多い。

高校生が核廃絶署名活動 静岡英和女学院も協力

による死者350人を出し  
学院高(広島市)は7年  
核兵器廃絶への賛同を  
署名活動を、原爆ドーム  
で行っている。活動は  
学校に広がる。今年は静  
学院中高(静岡市)など  
、約50校から6万2000  
人で国連に届けた。  
夏、広島県福山市の盈  
(しん)中高と沖縄県の沖  
の両校が企画した「中  
日サミット」が広島女学  
院高を会場に開かれたのを  
に、3校を中心とする署名活  
が始まった。広島女学院高は  
時に署名実行委員会を設立。  
1回程度の街頭署名に取り  
み、資料を郵送するなど県内  
の他校へも協力を訴え、7年  
で35万人以上の署名を集めた  
同校2年生で署名実行委員  
メンバーの並川桃夏さん(17)  
祖父が被爆した被爆3世。高  
に入るまで祖父が被爆者だと  
うことも知らなかつたが、活

を通じて戦争への関心が高まり、何度も被爆体験を聞いた。「自分の町に原爆が落ちたらどう思うか。戦争を身近に感じない若者に核兵器の恐ろしさを伝えたい」と力を込める。

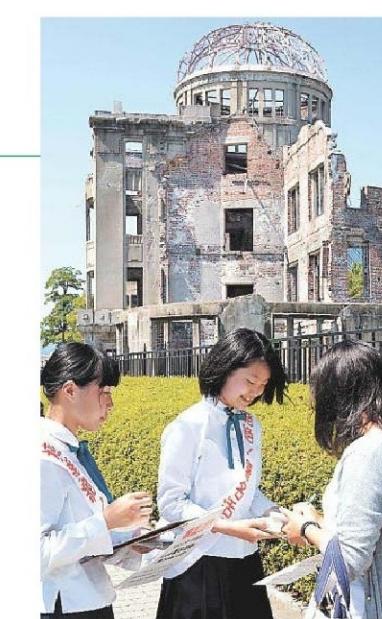
静岡英和女学院中高の生徒会は今年、生徒326人分の署名を広島女学院高に送った。活動時、生徒会長だった松永麻友香さん(17)=3年=は「平和に向けて具体的に行動できたことで自信につながった」と振り返った。

藤井さんは「被爆者の擁護を訴えるだけではなく、平和を発信する組織にしなければ、これからこの被爆者団体は残つていかない」と指摘する。【二】度と戦争を起こすな」という亡くなつた被爆者の叫びは、やはり被爆者団体が中心となつて引き継ぐべき。市民を巻き込み、100年続く体制をつくりたい」と意気込む。ただ、継承がうまくいく地域ばかりではない。広島県原爆被害者団体協議会によると、今年に入り、地域別に設

る慰靈碑を清掃した。藤井さんは「被爆者の擁護を訴えるだけではなく、平和を発信する組織にしなければ、これからこの被爆者団体は残つていかない」と指摘する。【二】度と戦争を起こすな」という亡くなつた被爆者の叫びは、やはり被爆者団体が中心となつて引き継ぐべき。市民を巻き込み、100年続く体制をつくりたい」と意気込む。ただ、継承がうまくいく地域ばかりではない。広島県原爆被害者団体協議会によると、今年に入り、地域別に設

活動縮小の危機にひんじてゐる。県内の被爆者615人（3月末現在）のうち、会員は約200人いるが、活動できるのは50人ほど。地域別に最大15カ所あつた支部は浜松、静岡など4カ所に減少した。年内に「2世支部」（仮称）を発足させ、活動の継承を進めると指摘する。

静岡県原水爆被害者の会も活動縮小の危機にひんじてゐる。県内の被爆者615人（3月末現在）のうち、会員は約200人いるが、活動できるのは50人ほど。地域別に最大15カ所あつた支部は浜松、静岡など4カ所に減少した。年内に「2世支部」（仮称）を発足させ、活動の継承を進めると指摘する。



原爆ドームの前で核兵器廃絶への賛同を求める署名活動に取り組む広島女学院高の生徒＝1日、広島市

静岡新聞